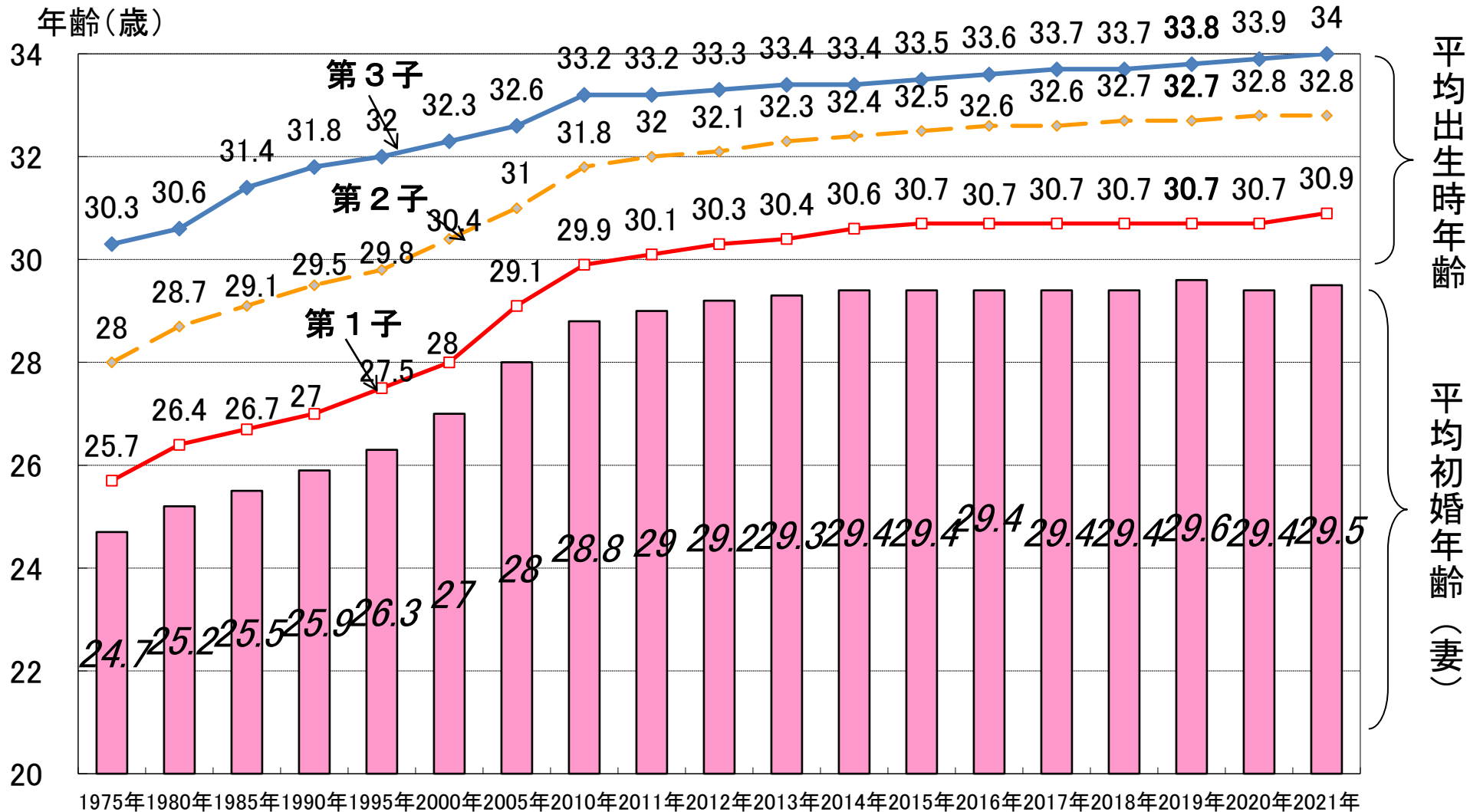


成育過程にある者等の状況について

平均初婚年齢・平均出生時年齢の推移

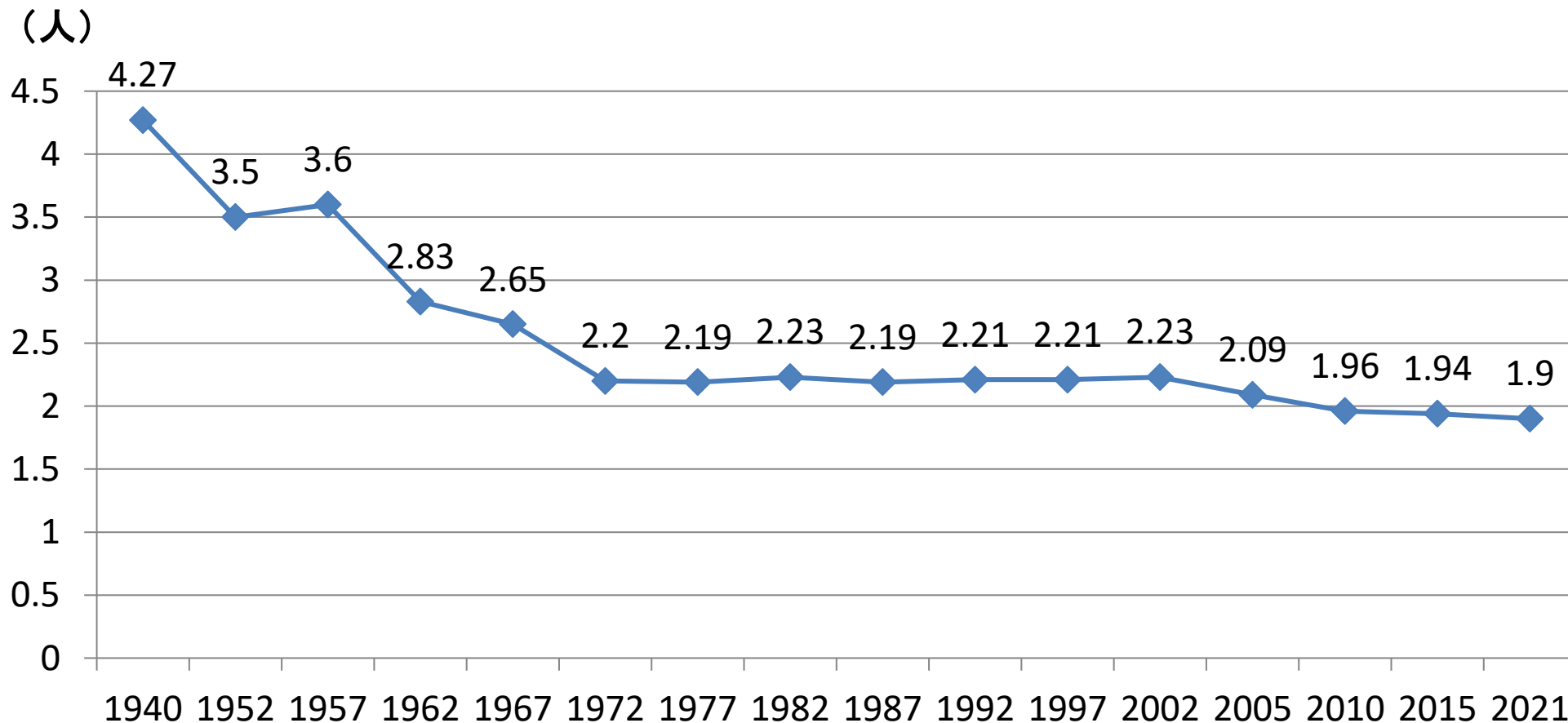
○ 晩婚化に伴い子どもを産む母の平均年齢は上昇傾向にある。



資料出所: 厚生労働省「人口動態統計」

夫婦の完結出生児数の推移

○結婚した夫婦からの出生児数が減少傾向。1960年代生まれ以降の世代では、最終的な夫婦出生児数が2人に達しない状況。



(注) 完結出生児数: 結婚持続期間(結婚からの経過期間)15~19年夫婦の平均出生子ども数であり、夫婦の最終的な平均出生子ども数

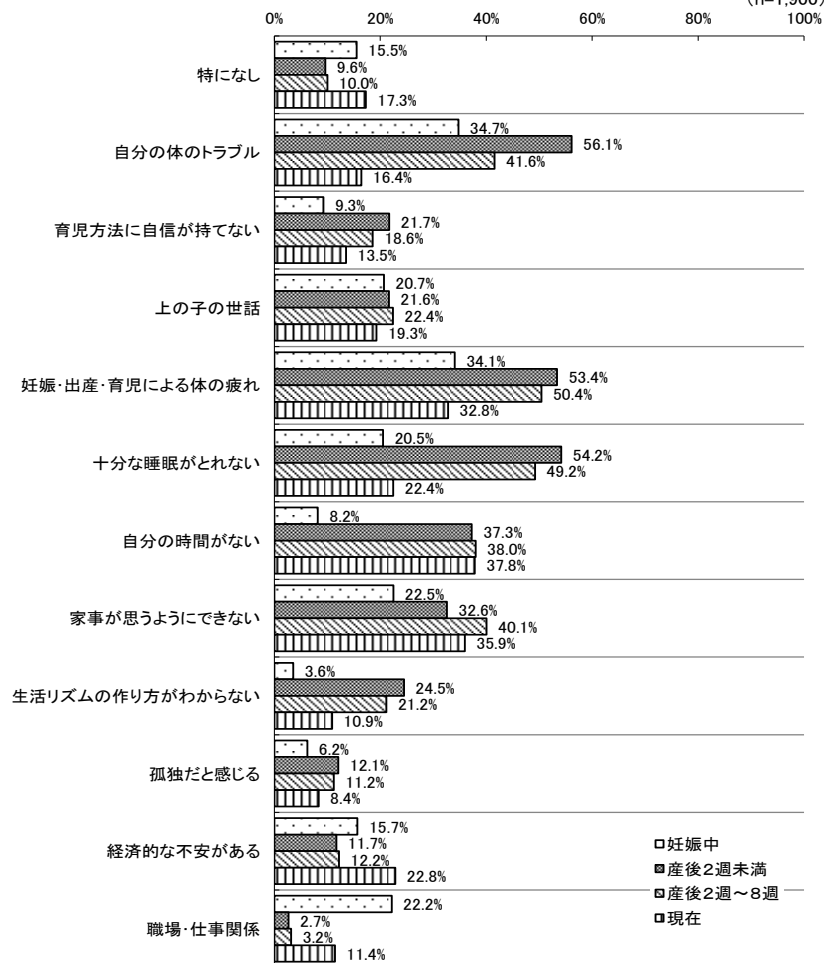
調査年次(年)

(資料出所) 国立社会保障・人口問題研究所:「第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」

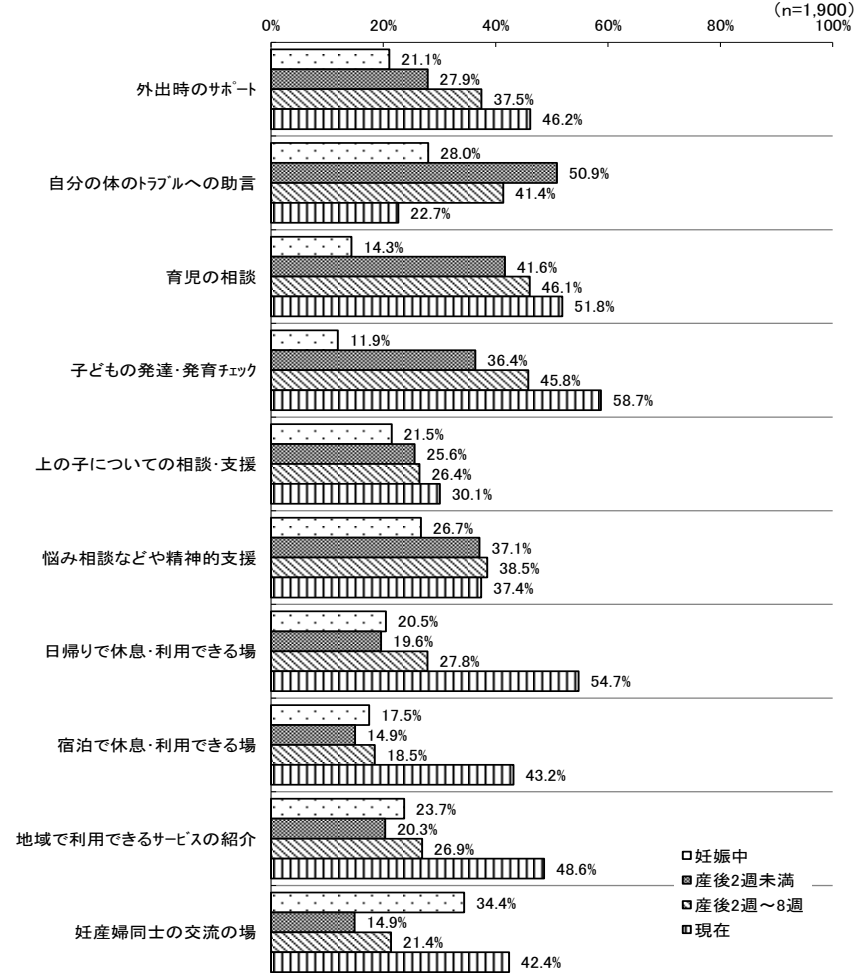
妊娠・出産・産後の不安に関する状況

○ 妊産婦は、妊娠、出産、産後の期間に様々な不安や負担を抱えている。

今回の妊娠・出産・産後期間に感じた不安や負担



妊娠・出産・産後期間の不安を解消するために必要なサービス



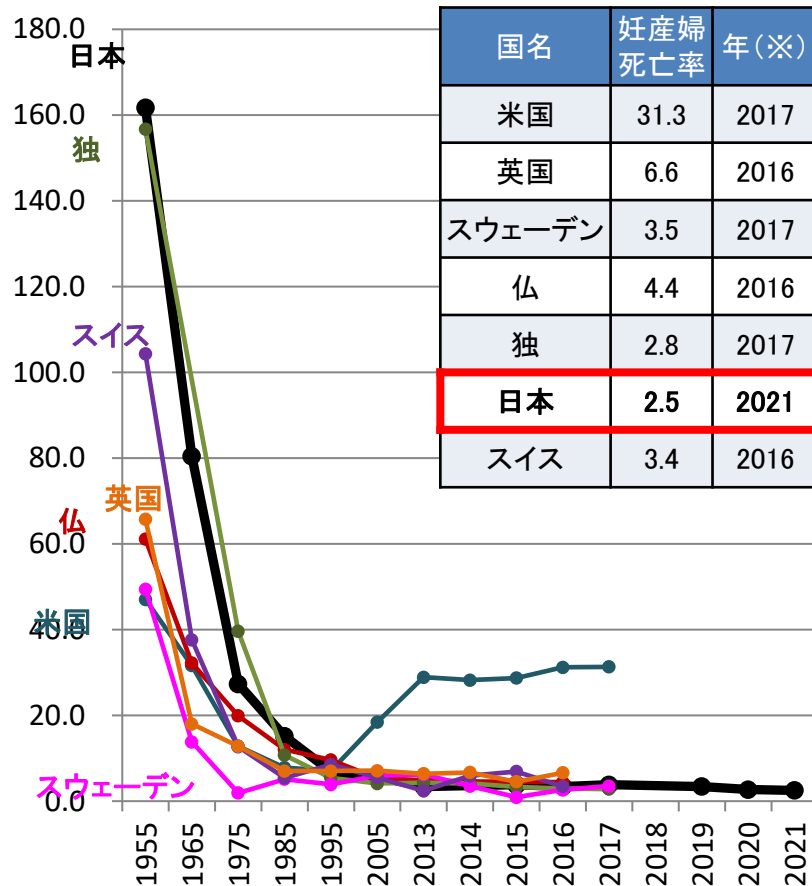
出典：三菱東京UFJリサーチ&コンサルティング「妊産婦に対するメンタルヘルスクアのための保健・医療の連携体制に関する調査研究（平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業）」(2018)

妊産婦死亡率・乳児死亡率の推移

○ 日本の妊産婦死亡率・乳児死亡率は、戦後急速に改善し、世界有数の低率国となっている。

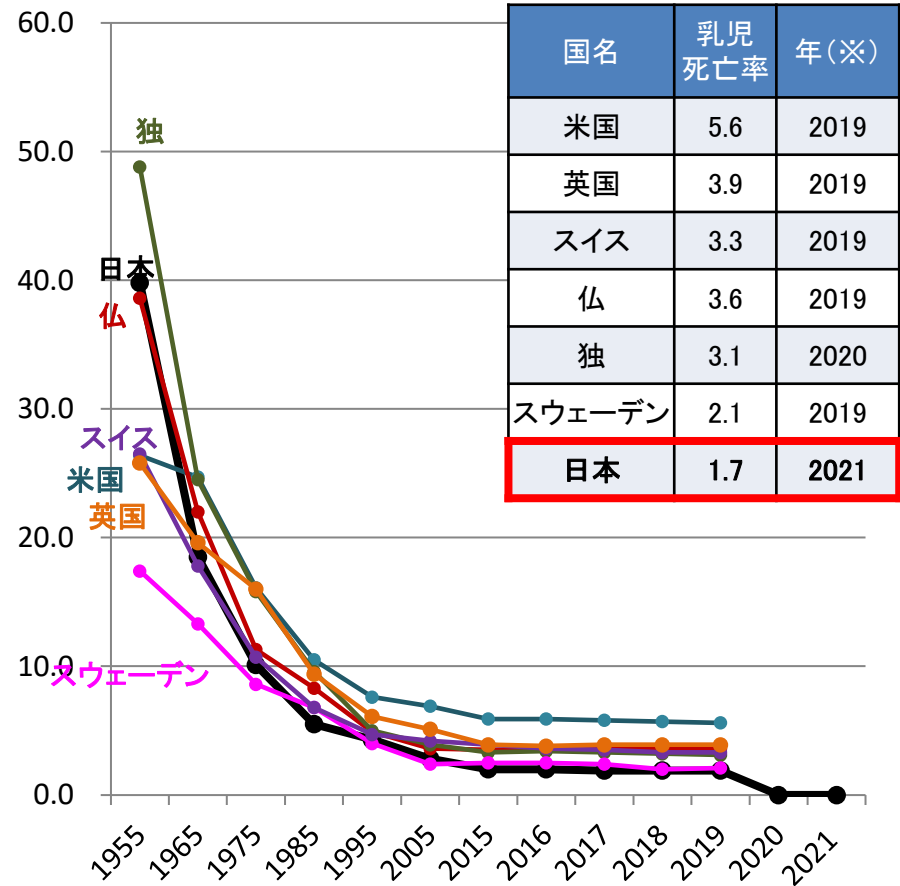
妊産婦死亡率

(妊産婦死亡数／出生数10万あたり)



乳児死亡率

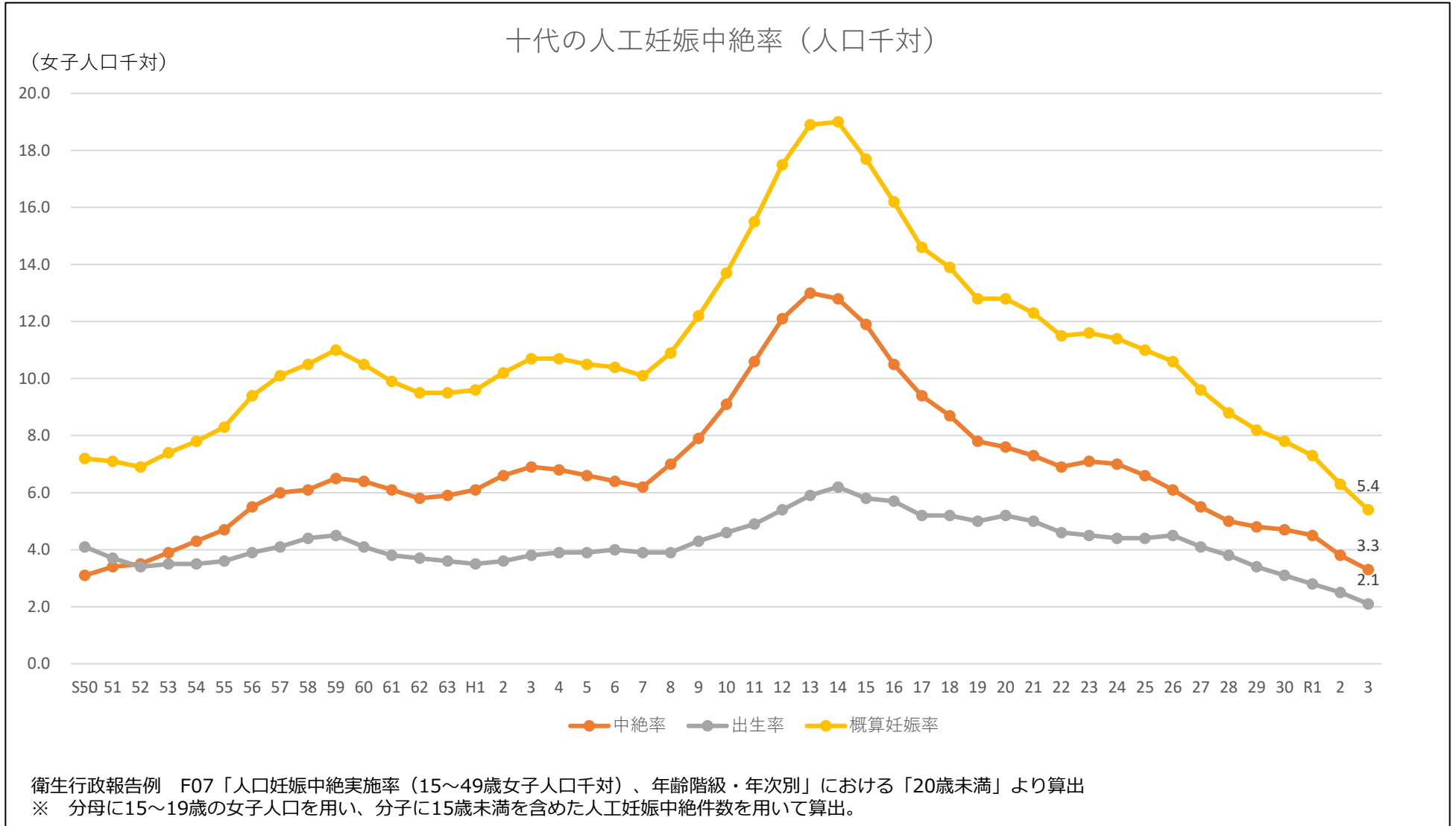
(乳児死亡数／出生数千あたり)



(※1) 妊産婦死亡率 = 1年間の妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の女性の死亡数 ÷ 1年間の出生数 × 100,000

(※2) 乳児死亡率 = 1年間の生後1歳未満の死亡数 ÷ 1年間の出生数 × 1,000

十代の人工妊娠中絶実施率(人口千対)



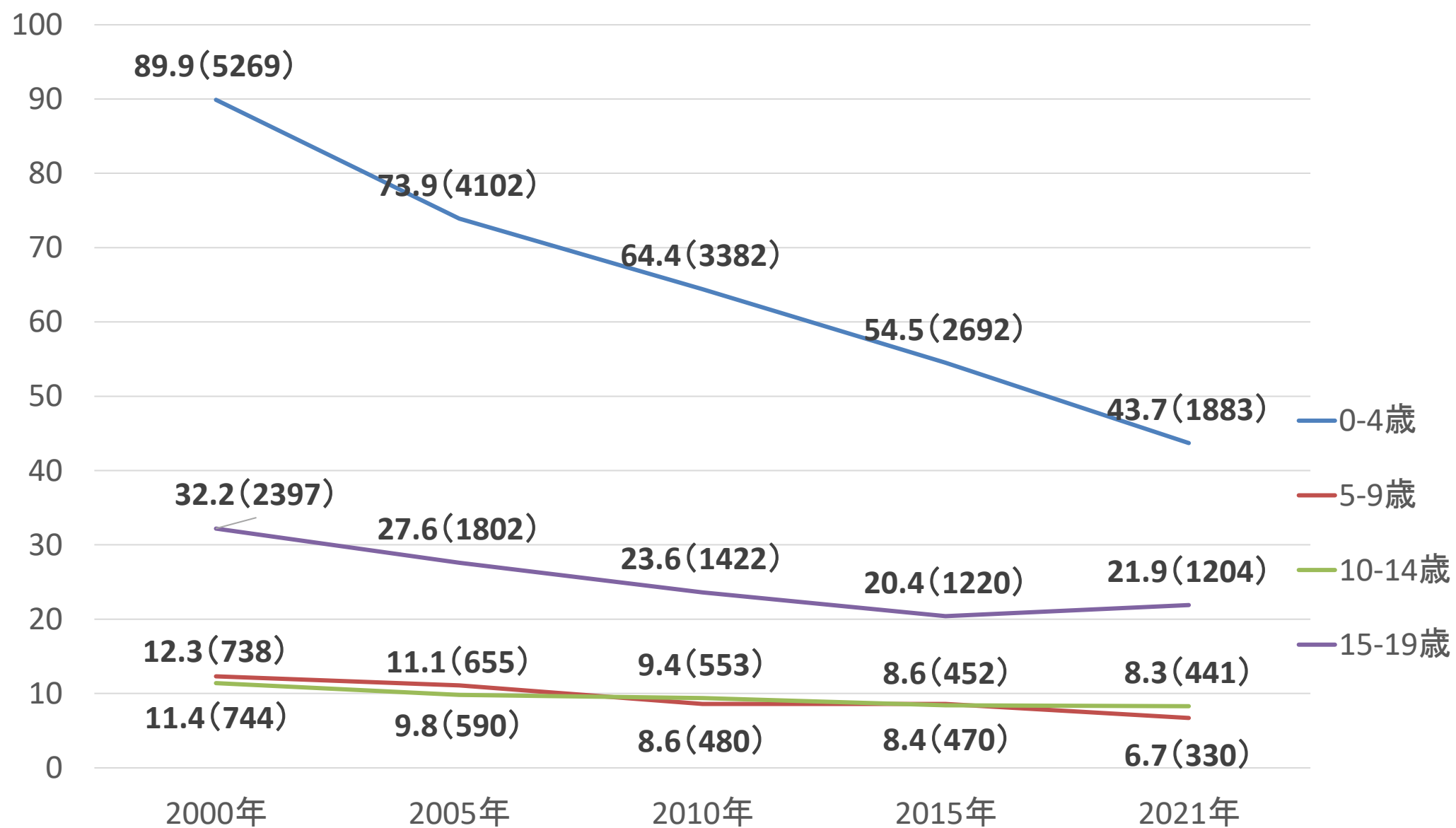
※令和3年度 人工妊娠中絶件数 126,174件 (※15歳未満、50歳以上も含まれる。)

人工妊娠中絶実施率 5.1 (※分母に15~49歳の女子人口を用い、分子に15歳未満を含め、50歳以上を除いて算出。)

小児死亡率の推移

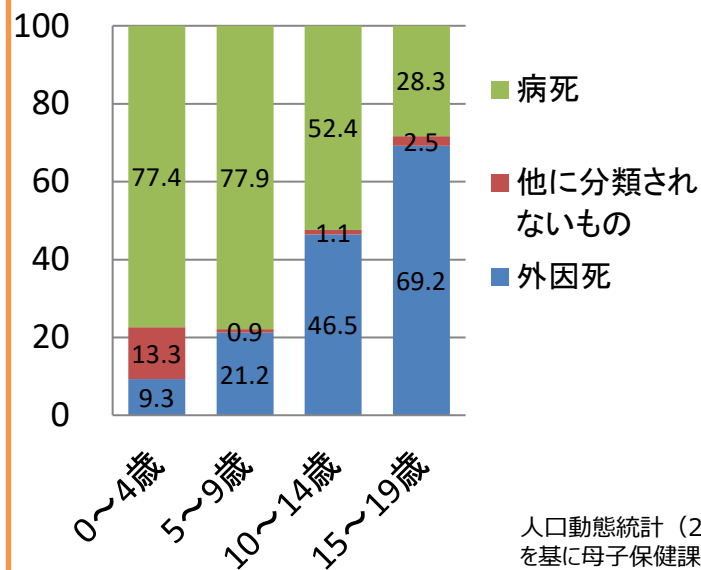
人口10万人に対する年齢階級別死亡率（死亡数）

人口動態統計を基に母子保健課作成



我が国における年齢別小児死因及び外因死の内訳(2021年)

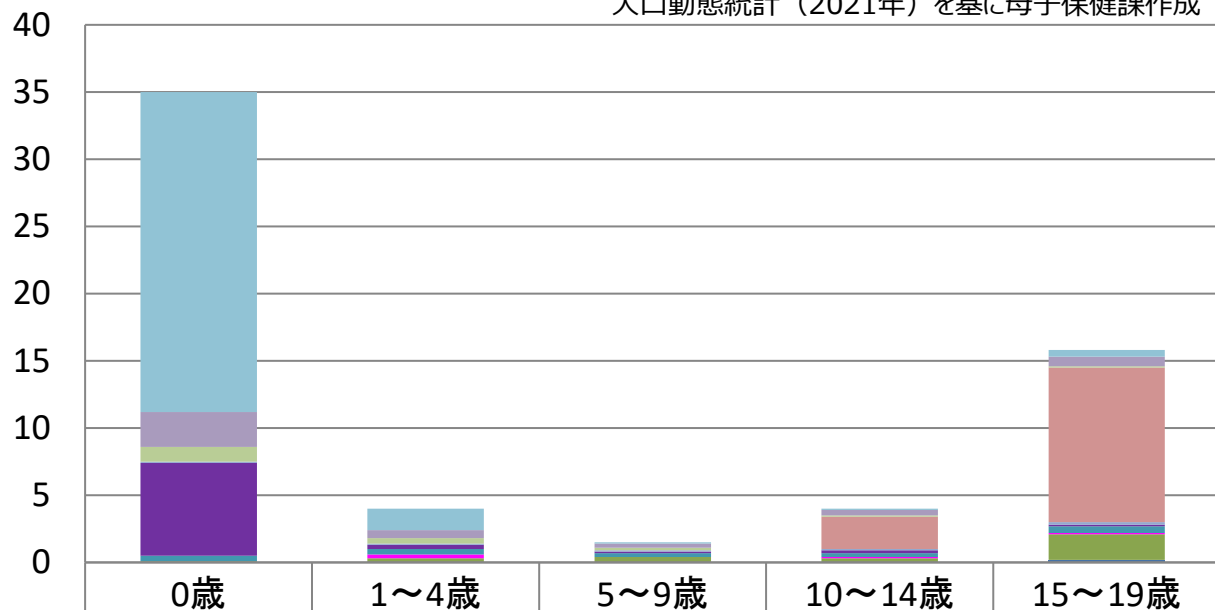
年齢別・死因別死亡割合



人口動態統計(2021年)を基に母子保健課作成

病死以外の死因 人口10万人に対する年齢別・分類別死亡率(死亡数)

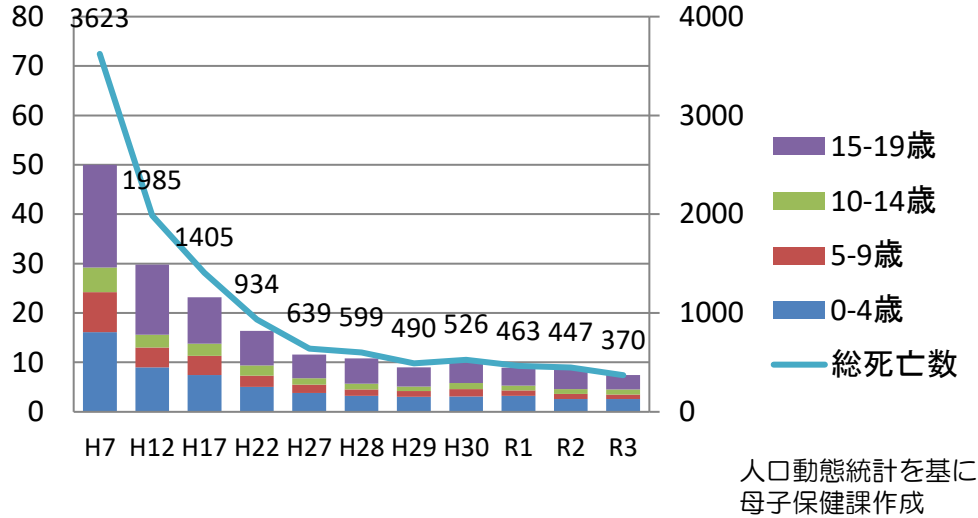
人口動態統計(2021年)を基に母子保健課作成



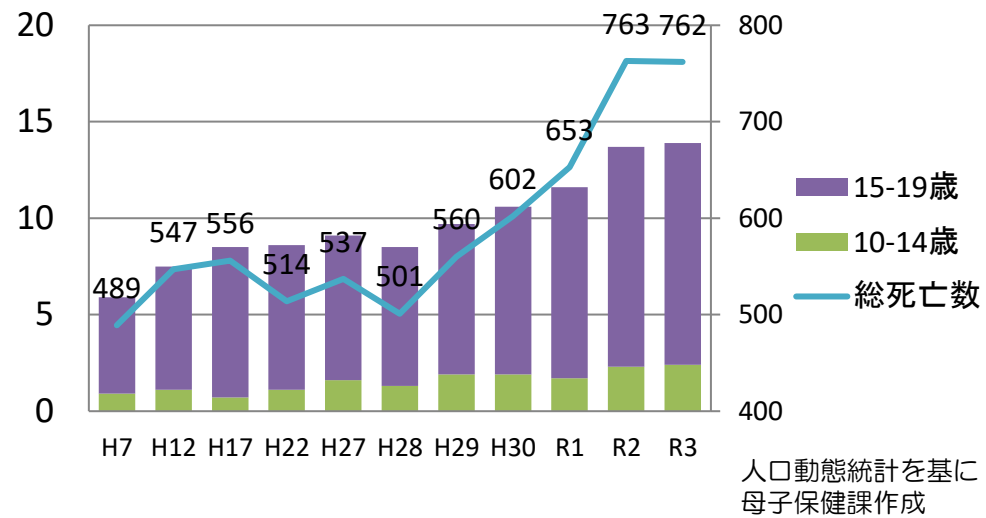
	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳
他に分類されないもの	23.8(193)	1.6 (57)	0.1 (3)	0.1 (5)	0.5 (28)
その他の外因	2.6 (21)	0.6 (22)	0.3 (10)	0.4 (6)	0.7 (3)
他殺(虐待含む)	1.1 (9)	0.4 (13)	0.2 (5)	0.1 (6)	0.1 (3)
自殺	0 (0)	0 (0)	0 (2)	2.4(128)	11.5(632)
その他の不慮の事故	0.1 (1)	0.1 (4)	0.1 (3)	0.1 (6)	0.2 (11)
不慮の窒息	6.9 (56)	0.3 (11)	0.1 (5)	0.2 (8)	0.1 (5)
不慮の溺死及び溺水	0.4 (3)	0.4 (13)	0.3 (15)	0.3 (16)	0.5 (26)
転倒・転落	0 (0)	0.3 (9)	0 (2)	0.1 (4)	0.1 (5)
交通事故	0.1 (1)	0.3 (12)	0.4 (19)	0.3 (18)	1.9 (106)
火炎への暴露	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)
中毒	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0.2 (9)

死因別の死亡数及び死亡率の推移

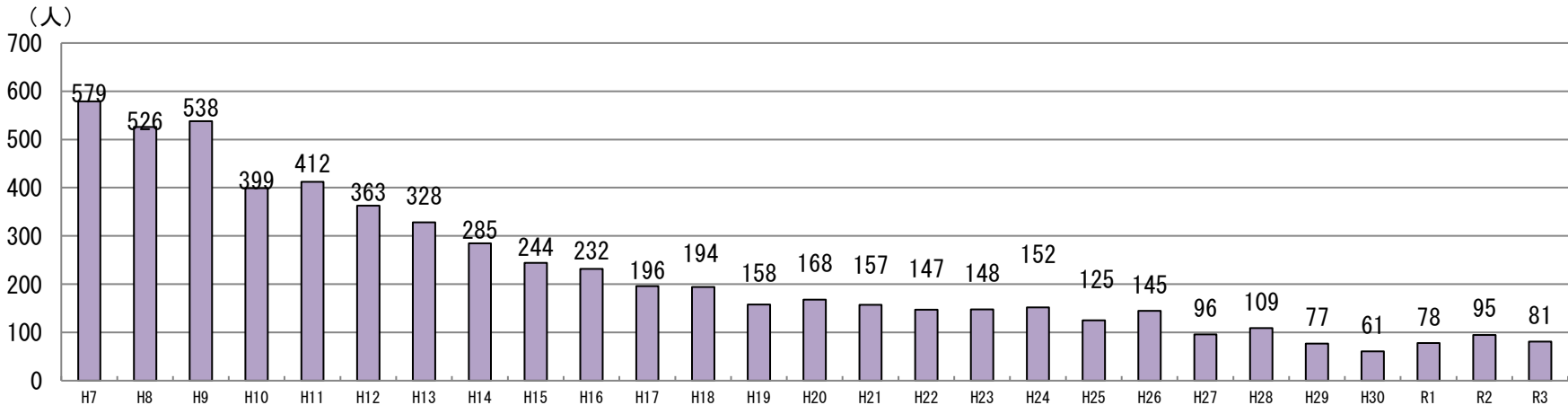
不慮の事故による死亡数及び年齢別死亡率（人口10万対）の推移



自殺による死亡数及び年齢別死亡率（人口10万対）の推移



乳幼児突然死症候群死亡者数の推移
(人口動態統計)



(件)

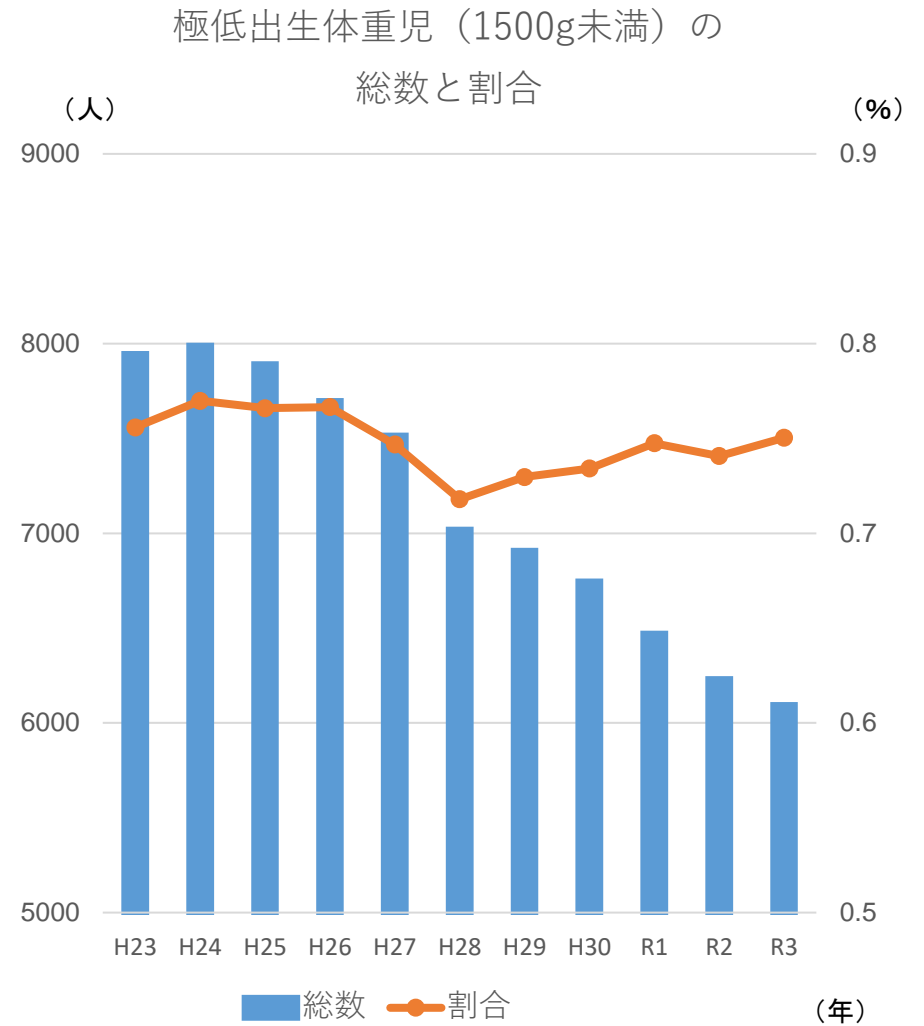
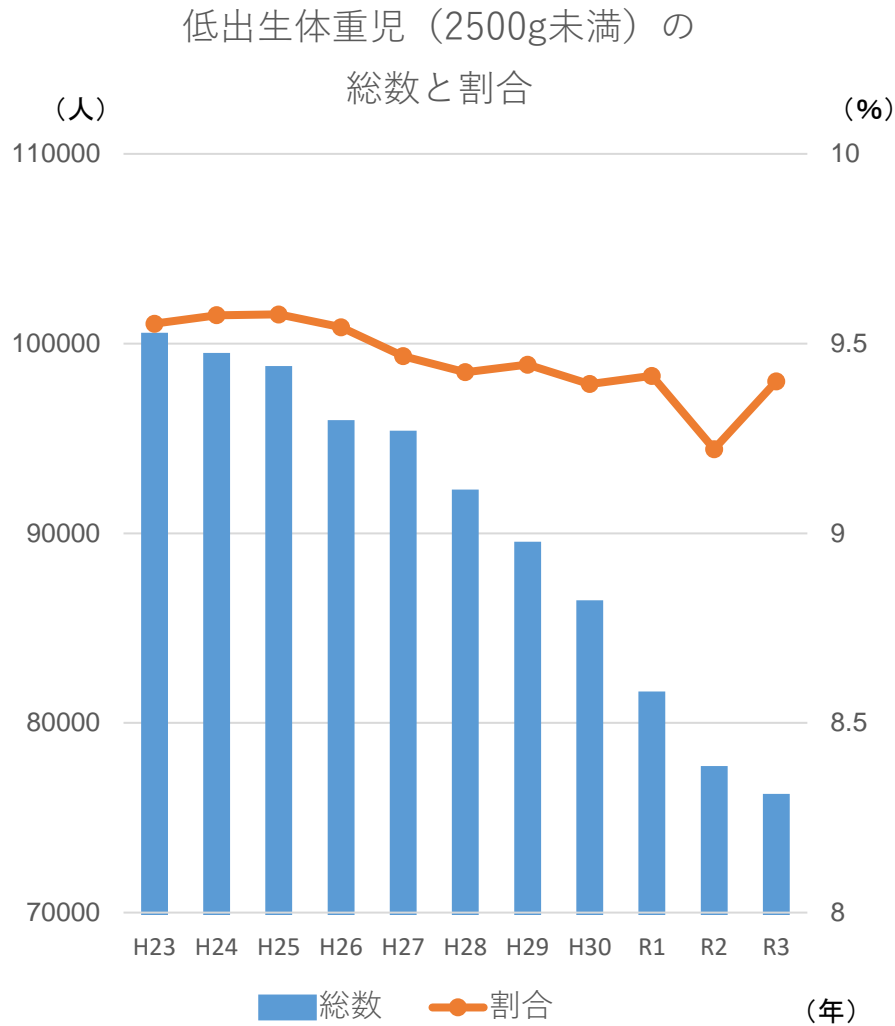
0～19歳における年齢ごとの受診理由

- 0歳では予防接種等の保健サービスの利用が多い。全ての年齢で喘息等の呼吸器系の疾患やアレルギー性皮膚炎等の皮膚の疾患が多く見られる。また、5歳以降になると精神及び行動の障害が見られる。

年齢	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳
最多 人数(千人)	予防接種 149	予防接種 299	喘息 240	その他の保健サービス 301	その他の保健サービス 206
2番目	乳幼児の 検査・健診・管理 43	喘息 164	アレルギー性鼻炎 240	アレルギー性鼻炎 195	ざ瘡(アクネ) 130
3番目	その他の 急性上気道感染症 38	アレルギー性皮膚炎 143	予防接種 214	その他の精神及び 行動の障害 125	アレルギー性皮膚炎 92
4番目	その他の皮膚炎及び 湿疹 35	その他の 急性上気道感染症 113	その他の保健サービス 184	喘息 123	その他の精神及び 行動の障害 81
5番目	その他の皮膚及び 皮下組織の疾患 33	アレルギー性鼻炎 113	その他の精神及び 行動の障害 163	屈折及び調節の障害 (眼) 91	アレルギー性鼻炎 80
6番目	アレルギー性皮膚炎 27	急性気管支炎 111	アレルギー性皮膚炎 120	アレルギー性皮膚炎 86	屈折及び調節の障害 (眼) 68
7番目	妊娠期間及び胎児発育 に関連する障害 21	その他の皮膚及び 皮下組織の疾患 94	屈折及び調節の障害 (眼) 72	それ以外の検査・健診・ 管理 80	予防接種 49

低出生体重児の総数と割合

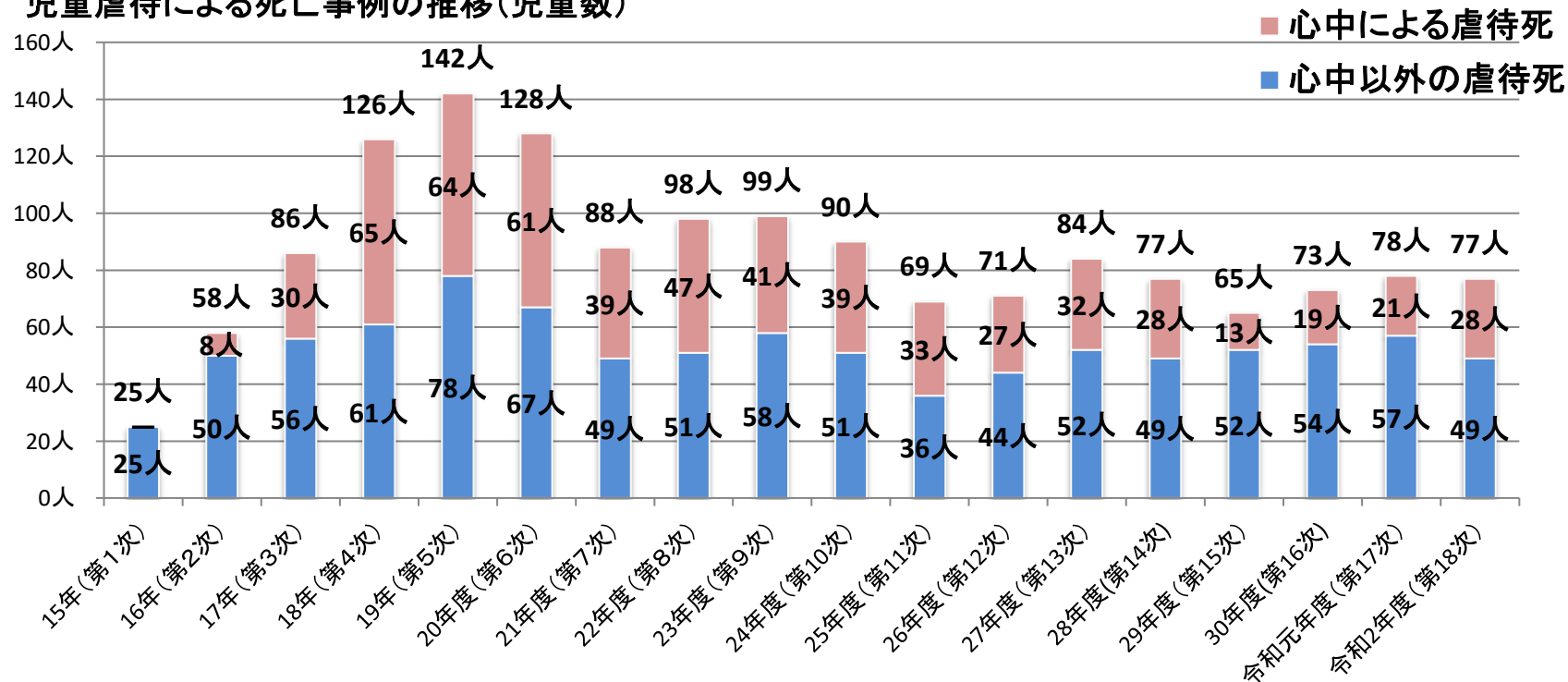
○ 低出生体重児及び極低出生体重児の割合は近年横ばい傾向である。総数については、概ね一貫して減少傾向である。



子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第18次報告)(概要)

社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会【令和4年9月】

児童虐待による死亡事例の推移(児童数)



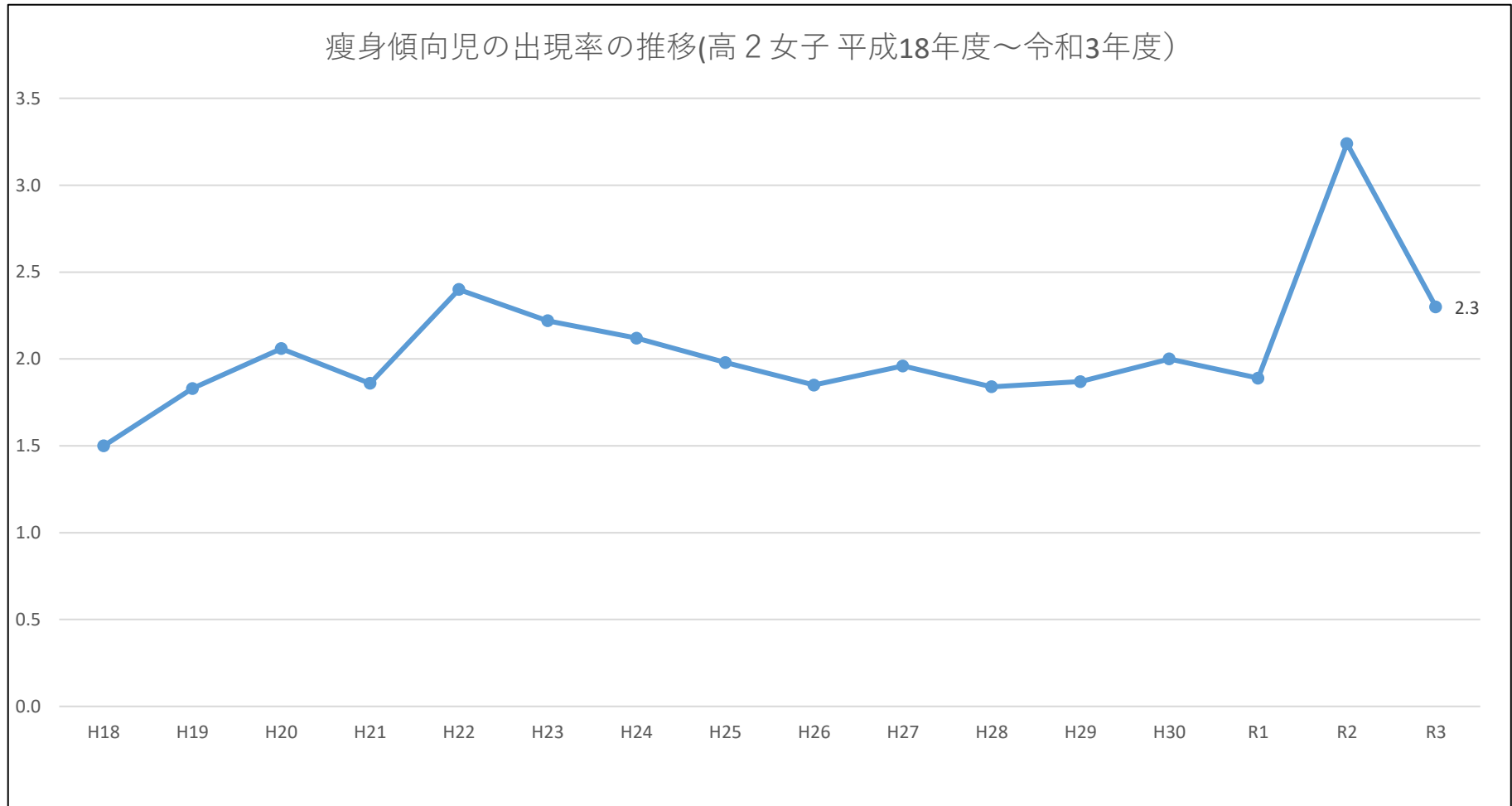
(注1) 平成15年～平成19年までは暦年。平成20年度以降は年度、(注2) 平成15年はH15.7.1～H15.12.31の6か月間、(注3) 平成19年はH19.1.1～H20.3.31の15か月間

第1次から第18次報告までの児童虐待による死亡事例等の検証結果

【心中以外の虐待死 889例・939人】

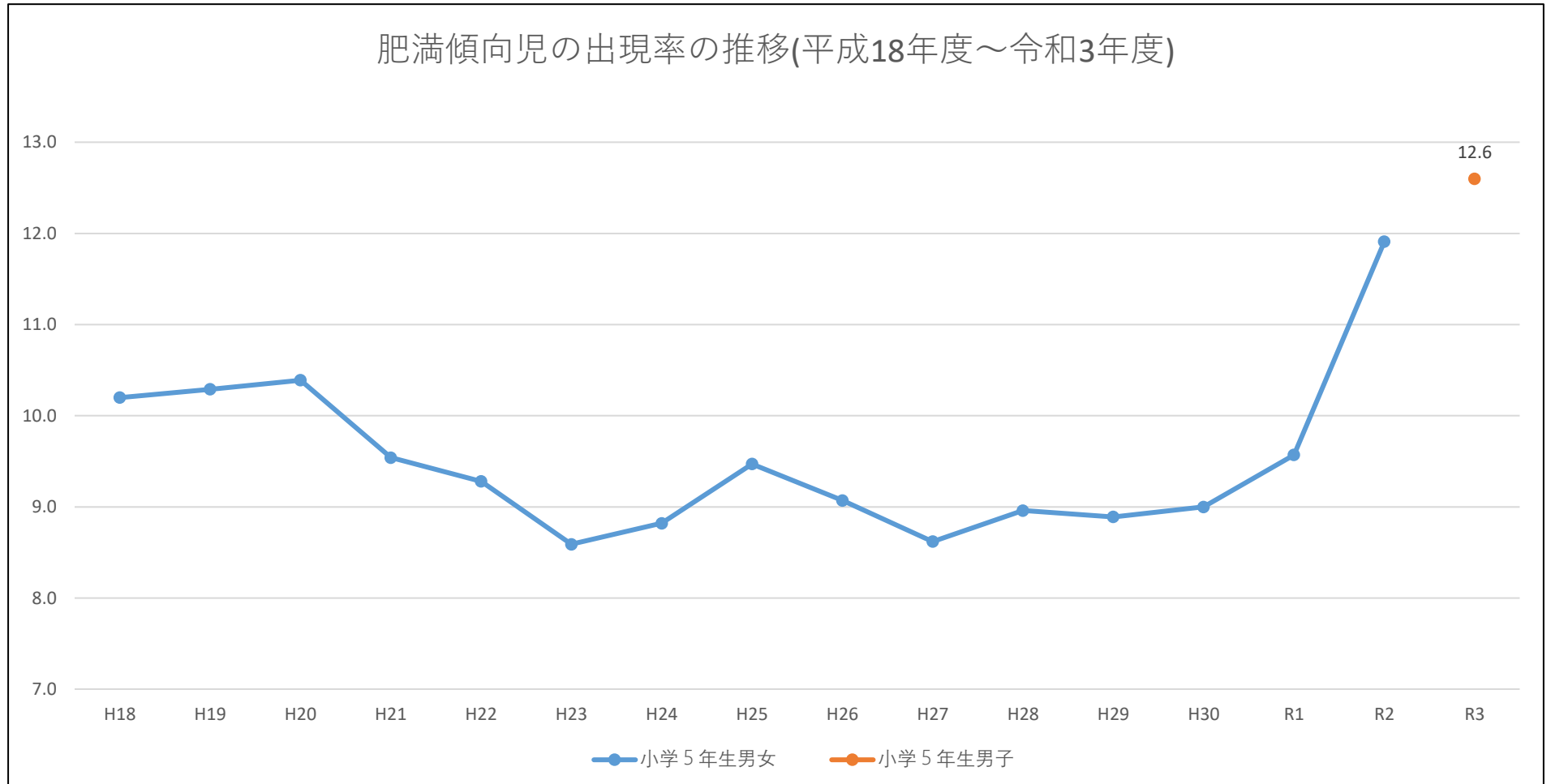
- **0歳児の割合は48.5%、0日児の割合は18.4%**。さらに、3歳児以下の割合は76.1%を占めている。
- **加害者の割合は実母が54.6%**と最も多い。
- 妊娠期・周産期における問題では、**予期しない妊娠/計画していない妊娠が27.7%、妊婦健康診査未受診の状況が27.2%**と多かった(第3次報告から第18次報告までの累計)。

児童・生徒における痩身傾向児の割合



出典：学校保健統計調査

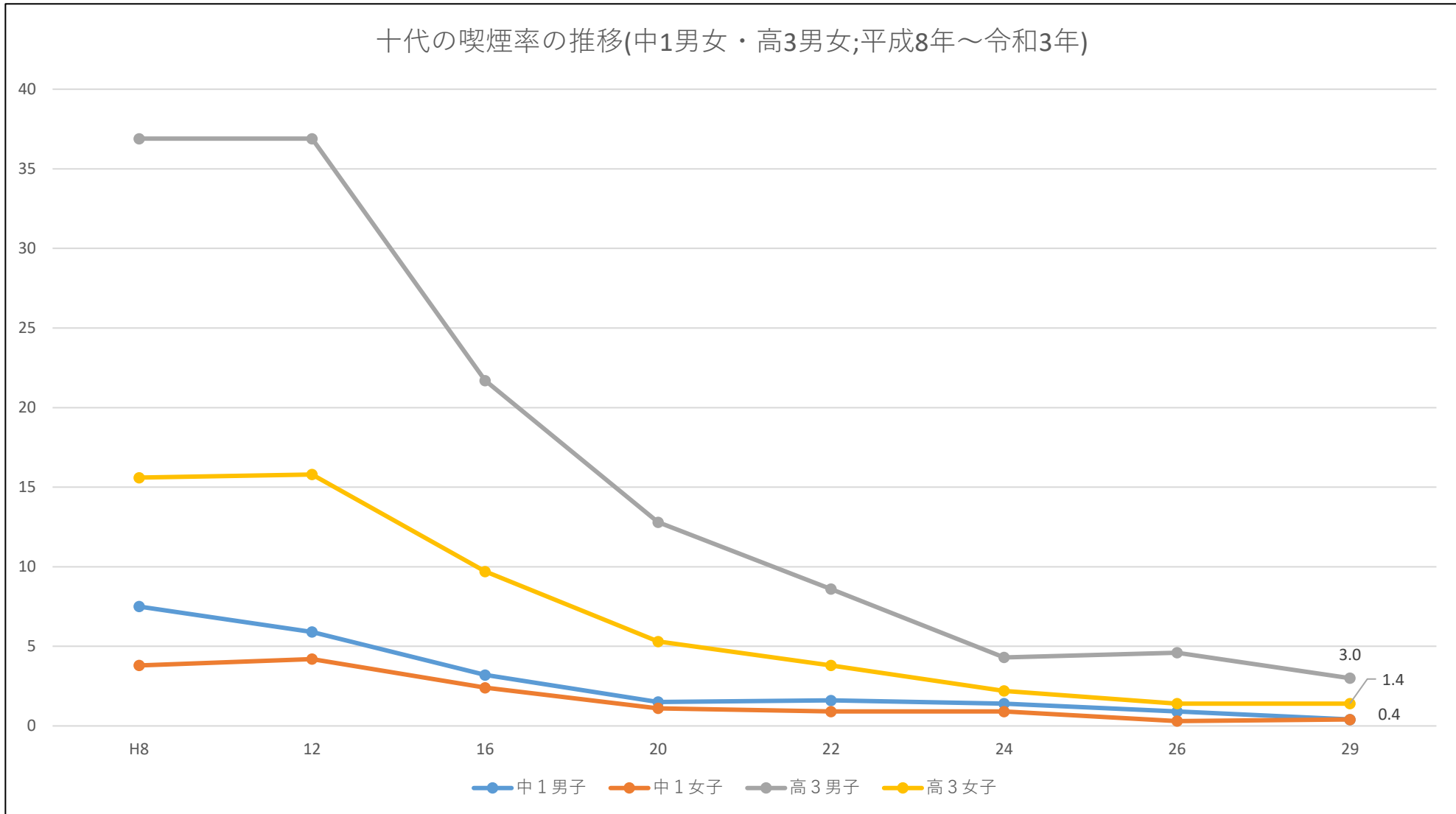
児童・生徒における肥満傾向児の割合



出典：学校保健統計調査

十代の喫煙率

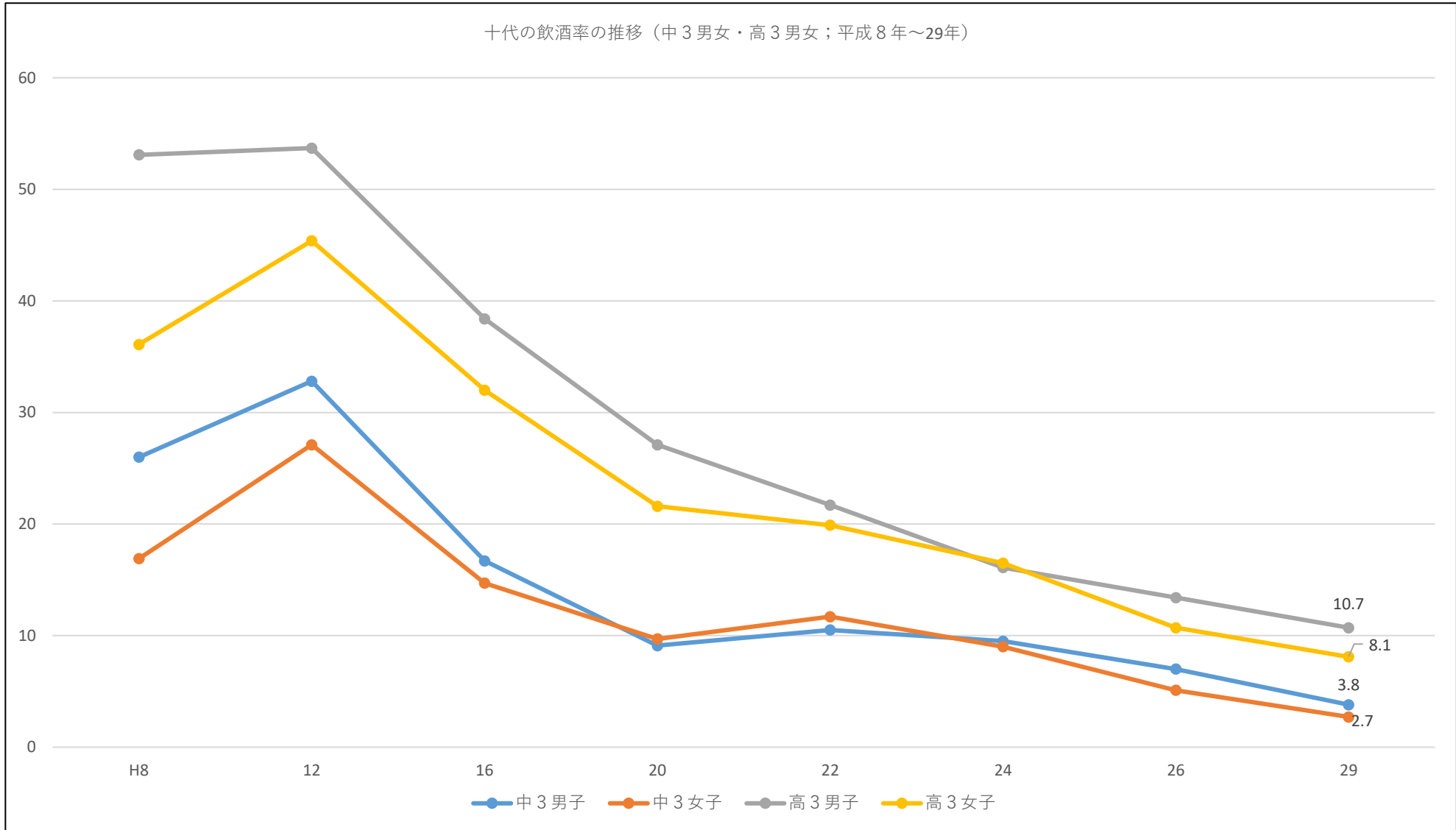
十代の喫煙率の推移(中1男女・高3男女;平成8年～令和3年)



出典：厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）未成年者の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究（研究代表者：大井田隆）
厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）飲酒や喫煙等の実態調査と生活習慣病予防のための減酒の効果的な介入方法の開発に関する研究（研究代表者：尾崎米厚）

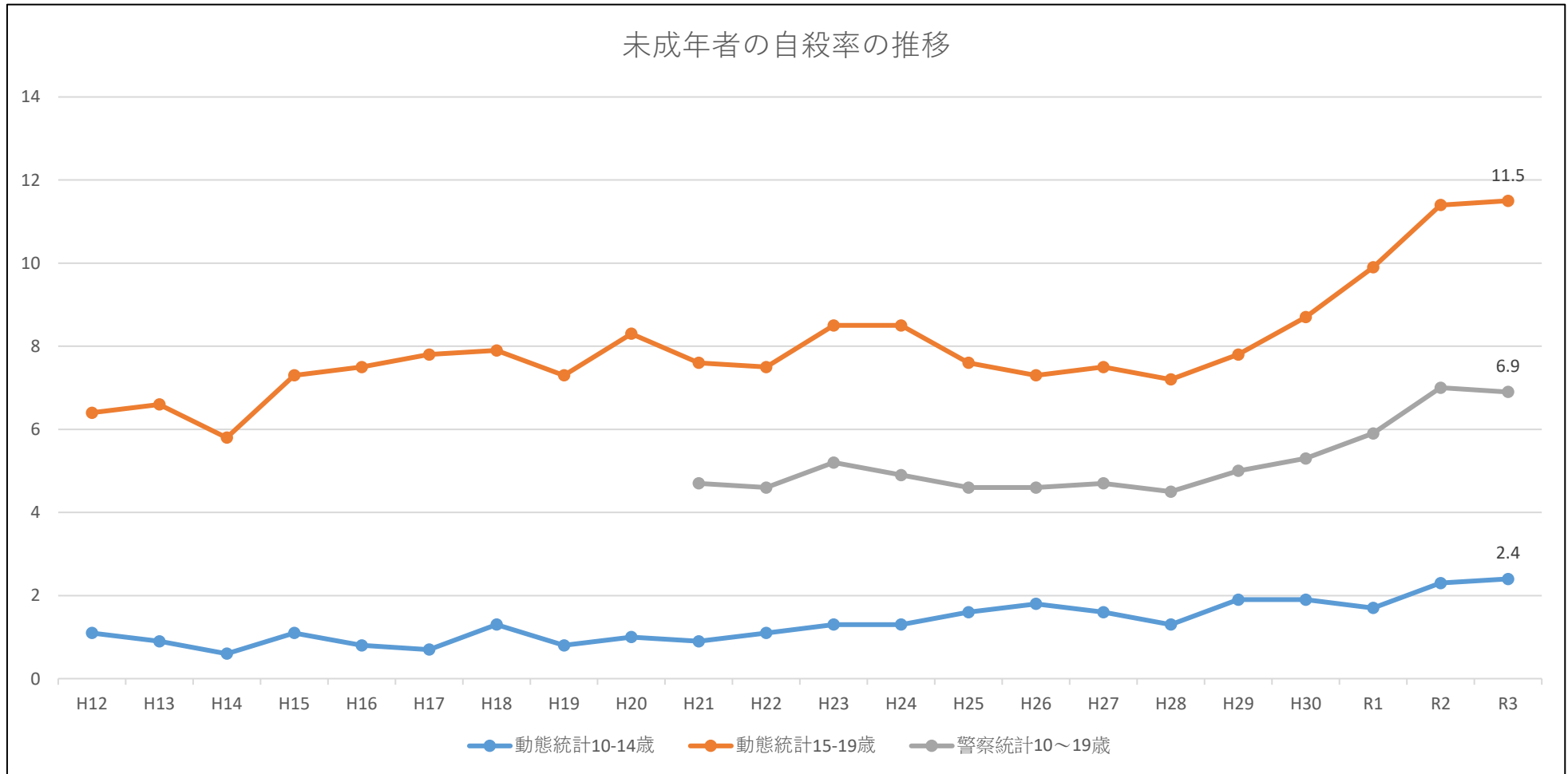
十代の飲酒率

十代の飲酒率の推移（中3男女・高3男女；平成8年～29年）



出典：厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）未成年者の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究（研究代表者：大井田隆）
厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）飲酒や喫煙等の実態調査と生活習慣病予防のための減酒の効果的な介入方法の開発に関する研究（研究代表者：尾崎米厚）

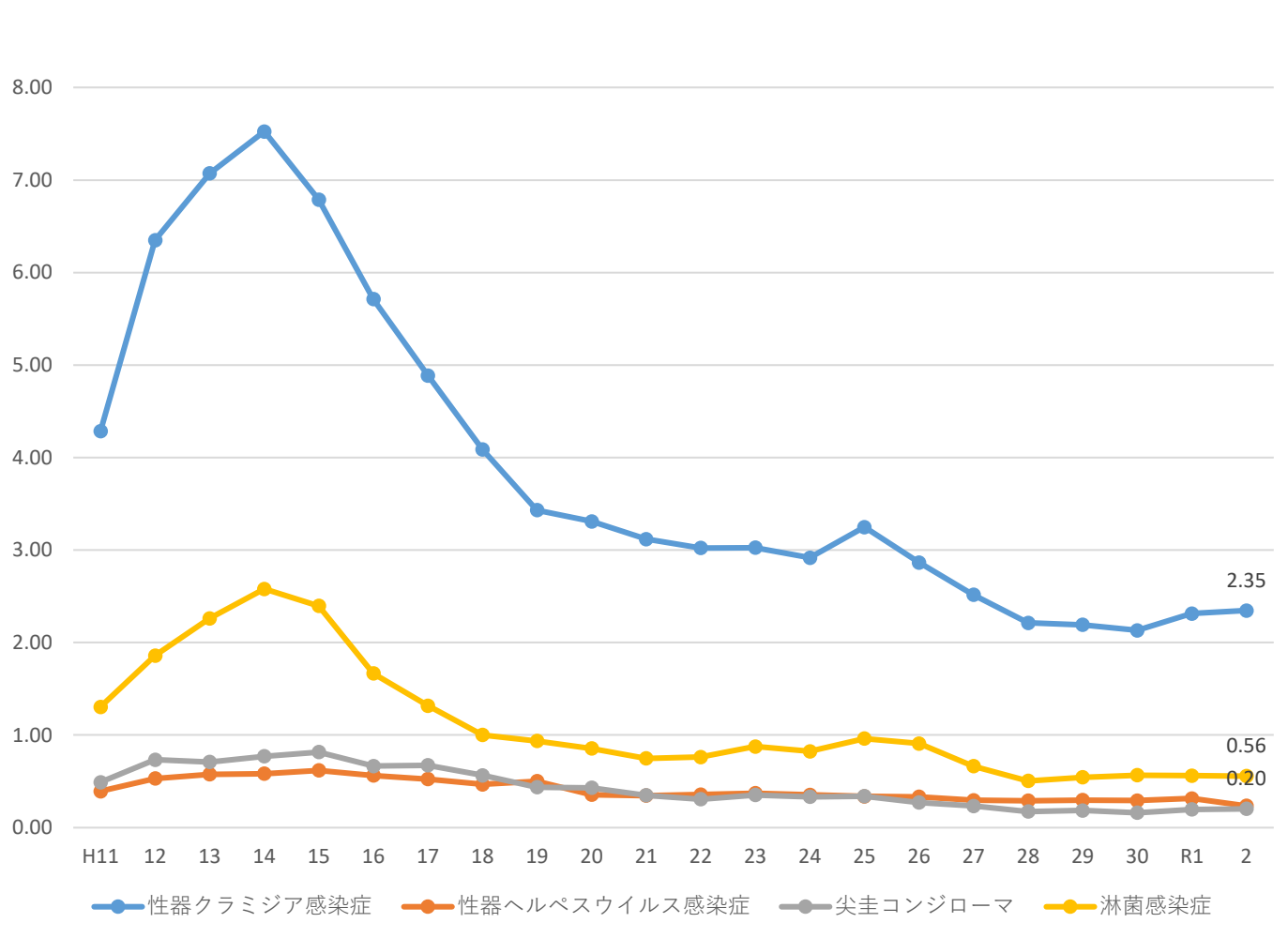
十代の自殺死亡率(人口10万対)の年次推移



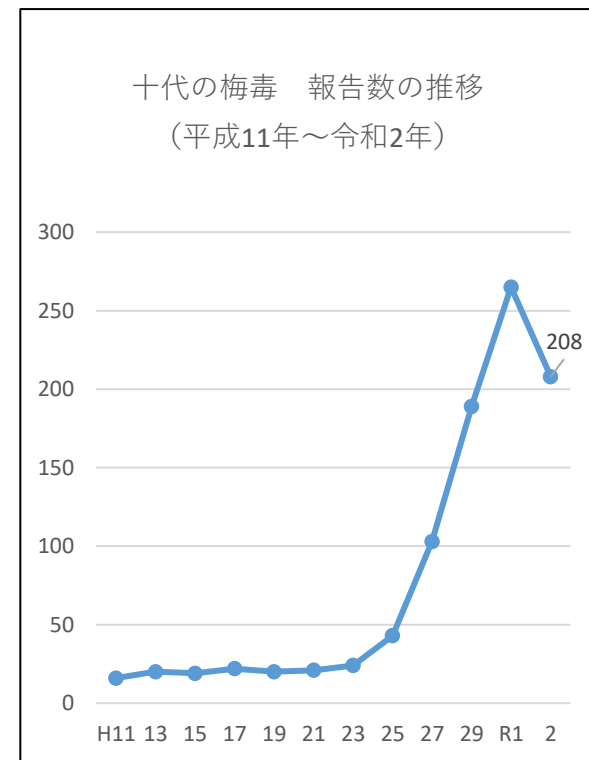
出典：人口動態統計上巻 死亡 第5-16表 性・年齢別にみた死因簡単分類別死亡率(人口10万対) 10-14歳および15-19歳の[20200自殺]総数(男性、女性)

十代の性感染症罹患率

十代の性感染症 定点当たり報告数の推移 (平成11年～令和2年)



十代の梅毒 報告数の推移 (平成11年～令和2年)



出典：感染症発生動向調査 性感染症(STD)報告数(年間報告数)